

東北電力審査資料	
資料番号	女東共-1(改0)
提出年月日	2022年11月10日

# 審査資料の品質確保について

2022年11月10日  
東北電力株式会社

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

## 審査会合におけるコメント

No.	コメント 時期	コメント内容	回答頁
1	2022年10月21日 第1083回審査会合	コア写真は特に重要な一次データであることから、関連する柱状図その他の資料に影響ないことを確認する水平展開がなされているのか説明すること。	p5
2	2022年10月21日 第1083回審査会合	今回のコア写真の誤りは品証ルール上のどの段階のチェックが機能しなかったのか明確にすること。また、その原因分析を行い、チェック段階を見直す要否について説明すること。	p6～9
3	2022年10月21日 第1083回審査会合	不適合が確認できなかったプロセスについて、今回判明した誤り以外の誤りが発生する可能性はないのか確認すること。また、誤りを確認した資料の範囲を説明すること。	p10～11, 16～26
4	2022年10月21日 第1083回審査会合	原因究明と再発防止策について公開の審査会合で説明すること。	p6～9, 12～14

## 目次

- 1. 全体概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 2. 審査資料の誤り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 3. 資料作成ルールと誤りの発生原因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 4. その他の資料の確認結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 5. 再発防止策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 6. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
  
- (巻末資料) その他の資料で確認された誤り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

- 第1077回審査会合（非公開：2022年9月30日）で審議された、女川原子力発電所2号炉 特定重大事故等対処施設設置位置付近の地質・地質構造に対するコメントを踏まえ、資料集（ボーリング柱状図・コア写真）を確認したところ、2本のボーリング孔において、一部の深度のコア写真に、同じボーリング孔の異なる深度のコア写真が誤って貼られていることを確認しました。ただし、当該コア写真の誤りは、他の資料への影響が無いことを確認しました。
- また、第1077回審査会合資料一式について、その他の誤記等を確認した結果、上記2件のコア写真以外については、正しく資料が作成されており、誤りは確認されませんでした。
- コア写真の誤りについて、社内品質保証ルールに基づき、原因究明を行った結果、外観による識別が難しい画像等について、調査報告書から審査資料への転記に対する資料作成・チェック機能の改善が必要と判断しました。
- 現在審査中の東通1号や女川2号の既許可に係る審査資料について、外観による識別が難しい画像等の転記についての誤りが無いかを確認した結果、コア写真や音波探査記録の貼り間違い8件と誤記1件が確認されました。なお、これらの誤りについて、他の資料への影響が無いことを確認しました。また、これらの誤りの原因については、第1077回審査会合資料と同様の原因であり、同じ再発防止策が有効と判断しました。
- 再発防止策として、画像の転記に係る資料作成・チェックルールを追加すると共に、関係者へ審査資料の品質確保の重要性について教育を行い、品質改善を図ることとしました。

## 2. 審査資料の誤り (R3G-1孔)

- 第1077回審査会合の資料集（ボーリング柱状図・コア写真）184ページ及び185ページにR3G-1孔の深度30m~60mのボーリング柱状図及び対応するコア写真をそれぞれ記載している。
- R3G-1孔の深度39~60mに、深度60~81mのコア写真が貼られていた。
- ボーリング柱状図は正しく貼られており、コア写真の説明記事は正しく記載されていた。

## 2. 審査資料の誤り (3S<sub>2</sub>-1孔)

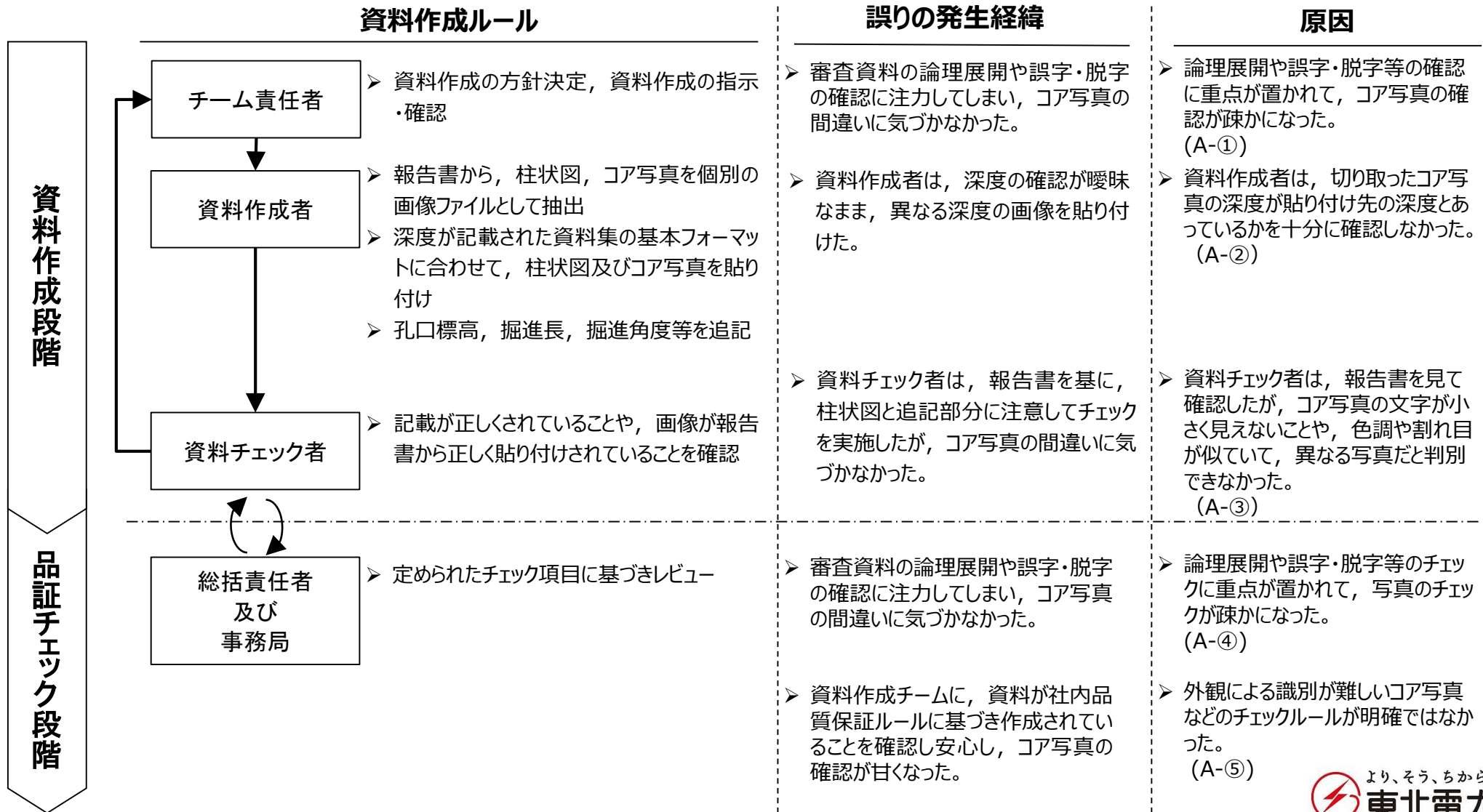
- 第1077回審査会合の資料集（ボーリング柱状図・コア写真）250ページ及び251ページに3S<sub>2</sub>-1孔の深度120m~150mのボーリング柱状図及び対応するコア写真をそれぞれ記載している。
- 3S<sub>2</sub>-1孔の深度120~150mに、深度90~120mのコア写真が貼られていた。
- ボーリング柱状図は正しく貼られており、コア写真の説明記事は正しく記載されていた。

## 2. 審査資料の誤り（他の資料への影響）

- 出典元となる調査報告書は、正しい柱状図及びコア写真が記載されており、審査資料のコア写真のみが誤りであることを確認した。
- 誤った審査資料（資料集）のコア写真は他の資料へ転記してなく、出典元となる調査報告書から転記しているため、同じ写真の誤りが他の資料へは展開されていない。また、地質断面図や、破碎部やシームの有無は柱状図に基づき作成することから、審査資料に記載したコア写真の誤りによる2次データへの影響は無い。
- 以上より、今回の審査資料のコア写真の貼り間違いによる、他の資料への影響は無い。
- 第1077回審査会合の審査資料一式（「女川原子力発電所2号炉 特定重大事故等対処施設設置位置付近の地質・地質構造について」）について、その他の誤記等は無く、画像の転記以外の品質維持ルールは有効に機能していることを確認した。

### 3. 資料作成ルールと誤りの発生原因（全体像）

- 資料集の作成例を基に、当社の資料作成ルールと誤りの発生原因を示す。
- 今回の誤りは、資料作成者の誤りと、資料チェック者及び総括責任者等によるコア写真の転記に対するチェック・レビューが機能しなかったことが原因と考えられる。



### 3. 資料作成ルールと誤りの発生原因（資料作成段階の詳細）

#### 資料作成ルール

#### 誤りの発生経緯

#### 原因

資料作成段階

チーム責任者

- 資料作成の方針決定，資料作成の指示・確認

資料作成者

- 報告書から，柱状図，コア写真を個別の画像ファイルとして抽出
- 深度が記載された資料集の基本フォーマットに合わせて，柱状図及びコア写真を貼り付け
- 孔口標高，掘進長，掘進角度等を追記

資料チェック者

- 記載が正しくされていることや，画像が報告書から正しく貼り付けされていることを確認

- 審査資料の論理展開や誤字・脱字の確認に注力してしまい，コア写真の間違いに気づかなかった。

- 資料作成者は，深度の確認が曖昧なまま，異なる深度の画像を貼り付けた。

- 資料チェック者は，報告書を基に，柱状図と追記部分に注意してチェックを実施したが，コア写真の間違いに気づかなかった。

- 論理展開や誤字・脱字等の確認に重点が置かれて，コア写真の確認が疎かになった。  
(A-①)

- 資料作成者は，切り取ったコア写真の深度が貼り付け先の深度とあっているかを十分に確認しなかった。  
(A-②)

- 資料チェック者は，報告書を見て確認したが，コア写真の文字が小さく見えないことや，色調や割れ目が似ていて，異なる写真だと判別できなかった。  
(A-③)



品証チェック段階

資料作成ルール	誤りの発生経緯	原因
<p>総括責任者 及び 事務局</p> <p>➤ 定められたチェック項目に基づきレビュー</p>	<p>➤ 審査資料の論理展開や誤字・脱字の確認に注力してしまい、コア写真の間違いに気づかなかった。</p> <p>➤ 資料作成チームに、資料が社内品質保証ルールに基づき作成されていることを確認し安心し、コア写真の確認が甘くなった。</p>	<p>➤ 論理展開や誤字・脱字等のチェックに重点が置かれて、写真のチェックが疎かになった。 (A-④)</p> <p>➤ 外観による識別が難しいコア写真などのチェックルールが明確ではなかった。 (A-⑤)</p>

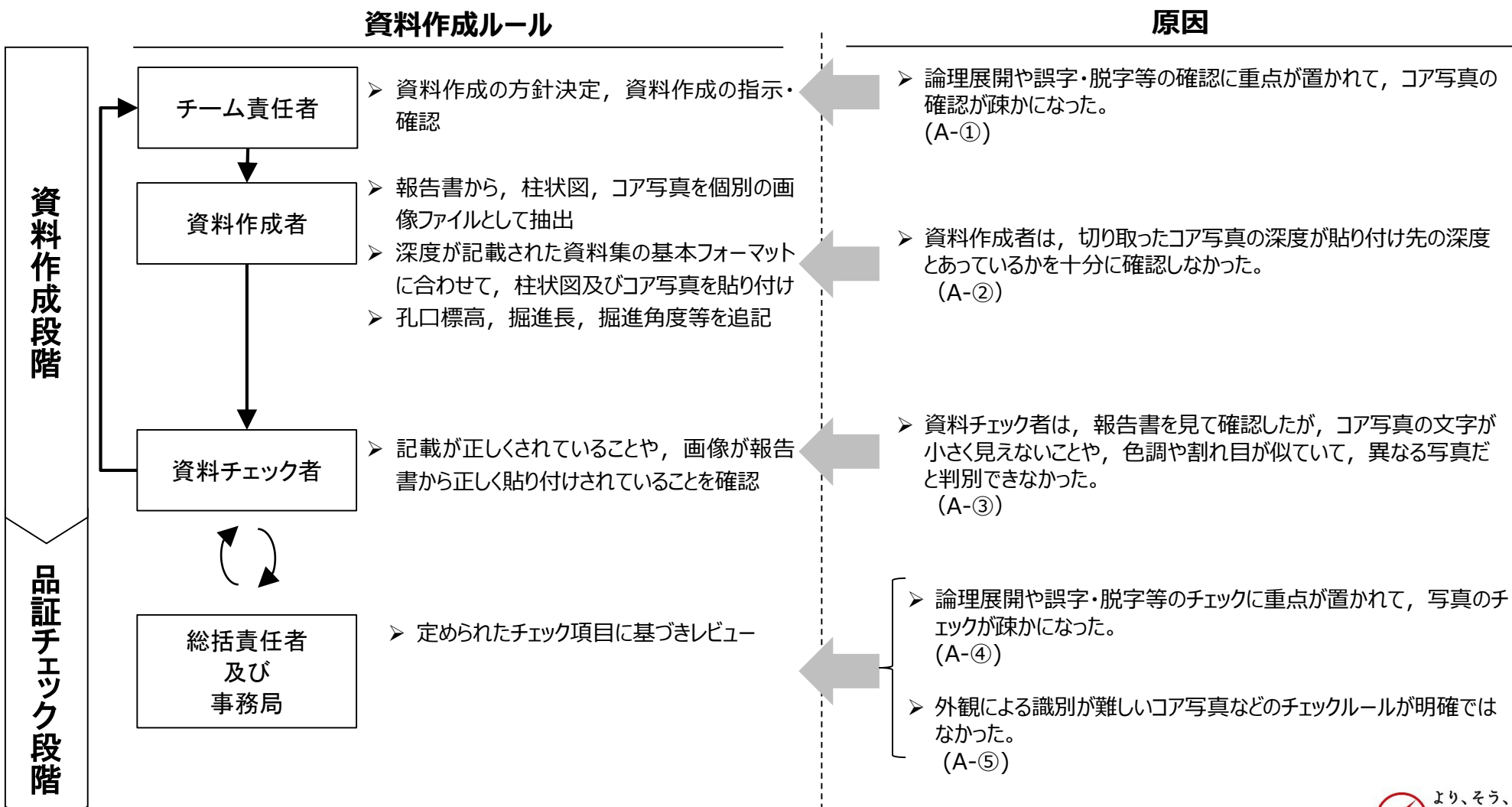
#### レビューのチェック項目

1. 誤字・脱字がないか
2. 評価が誤った記載となっていないか
3. 本文と添付資料の整合性に問題がないか
4. 数値計算している場合、計算結果に誤りがないか
5. 出典元となる図書等からの引用に誤りはないか
6. 略語は極力使わず、用語・語尾・文字・単位等の表現は統一されているか

論理展開や誤字・脱字等のチェックに重点が置かれて、写真のチェックが疎かになった。  
(A-④)

外観による識別が難しいコア写真などのチェックルールが明確ではなかった。  
(A-⑤)

- 文字や数字、単位等に対するチェック機能は有効に働いているが、外観による識別が難しい画像等について、調査報告書から審査資料への転記に対する資料作成・チェック機能の改善が必要と判断した。



品証チェック段階

## 4. その他の資料の確認結果

- 今回の事象の発生を受け、女川2号特定重大事故等対処施設に係る審査のうち地盤の審査資料の最新版（資料集合む）について、資料全般にわたり誤記チェックを行った結果、2章で説明のボーリングコア写真2件以外に誤りは発見されなかった。
- 今回の事象の発生原因が、外観による識別が難しい画像等について、調査報告書から審査資料への転記に対する資料作成・チェック機能が有効に機能しなかったことを踏まえ、現在審査中の東通1号や許可済みの女川2号の本体審査の、地盤、地震、津波、火山の審査資料の最新版（資料集合む）について、以下の通り確認した。
  - コア写真のように外観による識別が難しい画像について、出典元からの転記が正しく行われているかを確認した。  
（対象事例）
    - ボーリングコア写真、ボアホールカメラ、露頭写真、音波探査記録、降灰シミュレーション結果
  - 識別可能な画像について、従来のチェック機能が有効であり、正しい画像が貼られているかを確認した。  
（対象事例）
    - 地震動波形、地震応答スペクトル

### 新規制基準適合性審査資料の確認範囲

審査分野	女川2号		東通1号
	本体に係る審査	特定重大事故等対処施設に係る審査	本体に係る審査
地盤	○	○	○
地震	○		○
津波	○		○
火山	○		

## 4. その他の資料の確認結果

- 審査資料の確認により見つかった誤り9件を以下に示す。
- No. 3を除き、外観による識別が難しい画像等の転記ミスであり、コア写真の貼り間違いと同様の原因である。
- いずれの誤りについても、調査結果を踏まえた評価は、報告書を基に実施することから、審査資料の誤りによる2次データへの影響及びその他資料への影響は無いことを確認した。確認された誤り一覧表

No.	プラント	資料	ページ	内容	巻末資料 ページ
1	東通1号	第454回審査会合（2017年3月17日） 敷地の地形、地質・地質構造 机上配布資料	ma-39	・ コア写真の貼り間違い （貼り付け範囲の不足）	18
2		第865回審査会合（2020年6月4日） 基準地震動策定のうち地下構造の評価 机上配布資料1	36	・ コア写真の貼り間違い （別の深度の写真）	19
3		第878回審査会合（2020年7月17日） 敷地周辺～敷地の地形、地質・地質構造 机上配布資料2	od-43	・ コア写真の深度の誤記	20
4		第902回審査会合（2020年10月2日） 敷地周辺～敷地の地形、地質・地質構造 補足説明資料1	2-11	・ コア写真の貼り間違い （別のボーリング孔）	21
5		第1068回審査会合（2022年9月2日） 津波の評価 補足説明資料	244	・ 音波探査記録の貼り間違い （別の測線の記録）	22
6		第1068回審査会合（2022年9月2日） 津波の評価 補足説明資料	246	・ 音波探査記録の貼り間違い （別の測線の記録）	23
7		第1068回審査会合（2022年9月2日） 津波の評価 補足説明資料	269	・ 音波探査記録の貼り間違い （別の測線の記録）	24
8	女川2号	第417回審査会合（2016年11月18日） 敷地の地形、地質・地質構造 机上配布資料	169	・ コア写真の貼り間違い （上下逆）	25
9		第417回審査会合（2016年11月18日） 敷地の地形、地質・地質構造 机上配布資料	249	・ コア写真の貼り間違い （別の深度の写真）	26

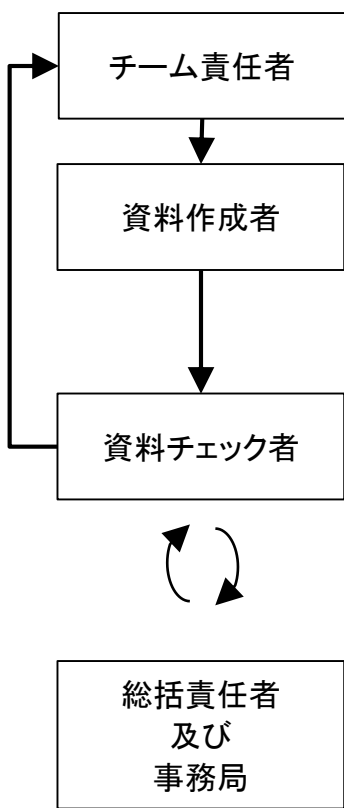
- 本事象で確認された原因に対して、再発防止策を立案し、社内品質保証ルールに記載する。
- 今回の再発防止策及び審査資料の品質確保の重要性については、定期的に教育を行い、意識の向上を図る。

## 原因

## 再発防止策

資料作成段階

品証チェック段階



- A-①
  - ・ 論理展開や誤字・脱字等の確認に重点が置かれて、コア写真や音波探査記録等の画像の確認が疎かになった。
- A-②
  - ・ 資料作成者は、切り取ったコア写真の深度や音波探査記録の測線番号が貼り付け先とあっているかを十分に確認しなかった。
- A-③
  - ・ 資料チェック者は、報告書を見て確認したが、文字が小さく見えないことや、色調や割れ目が似ていて、異なる画像だと判別できなかった。
- A-④
  - ・ 論理展開や誤字・脱字等のチェックに重点が置かれて、画像のチェックが疎かになった。
- A-⑤
  - ・ 外観による識別が難しいコア写真などの画像のチェックルールが明確ではなかった。

- C-①
  - ・ 資料作成者は、画像に含まれる識別情報（コア箱に記載の孔番、深度／音波探査記録に記載された文字列等）をディスプレイ上で拡大するなどして貼り付けた写真が正しい写真であることを確認する。
  - ・ 報告書の画像に識別可能な文字（コア写真の深度／音波探査記録の測線番号等）が併記されている場合は、画像と識別可能な文字を合わせて抽出して転記する。
- C-②
  - ・ 画像をチェックする時は、審査資料と報告書を並べて、文字情報、特徴的な模様を確認する。または、審査資料の電子ファイルをディスプレイ上で拡大して、資料作成者同様に正しい写真であることを確認する。コア写真の場合は、更に柱状図の記載と対比し、対応する写真であることを確認する。
- C-③※
  - ・ 出典元の図面等が正しく転記されていることを確認することを、具体的なチェック方法と合わせて、社内品質保証ルールに記載する。
- C-④※
  - ・ 審査資料の品質確保の重要性について教育を行い、意識の向上を図る。

※C-③、C-④は、コア写真の深度の誤記に対する再発防止策としても有効と判断

# 5. 再発防止策（チェック方法の詳細：コア写真の例）

➤ 以下の資料を社内品質保証ルールに添付し、ルール化する（    ：本事案の再発防止策）。

C-③

C-①, C-②

TF-1A1孔(2/4)		孔口標高: O.P.13.84m		掘進長: 100.00m		30.00~60.00m															
標尺 (m)	深度 (m)	柱状区分	地質名	色調	割れ目 風化状況	風化度										コア形状				観察事項	
						5	4	3	2	1	E	D	C	B	A	ROD	最大 コア長 (m)				
30	30.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	30.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
31	31.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	31.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
32	32.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	32.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
33	33.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	33.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
34	34.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	34.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
35	35.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	35.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
36	36.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	36.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
37	37.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	37.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
38	38.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	38.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
39	39.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	39.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
40	40.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	40.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
41	41.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	41.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
42	42.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	42.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
43	43.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	43.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
44	44.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	44.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
45	45.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	45.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
46	46.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	46.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
47	47.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	47.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
48	48.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	48.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
49	49.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	49.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
50	50.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	50.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
51	51.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	51.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
52	52.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	52.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
53	53.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	53.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
54	54.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	54.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
55	55.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	55.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
56	56.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	56.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
57	57.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	57.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
58	58.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	58.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。
59	59.00	○	砂岩	灰												20	40	60	80	100	59.00m 凝結砂岩、 $\angle 25^{\circ} \sim 30^{\circ}$ 、明色、一 つらみ。

審査資料確認方法の例



転記範囲

C-①

報告書のコア写真に深度が併記されている場合には、コア写真と深度を合わせて切り取り、一体として転記する。

C-②

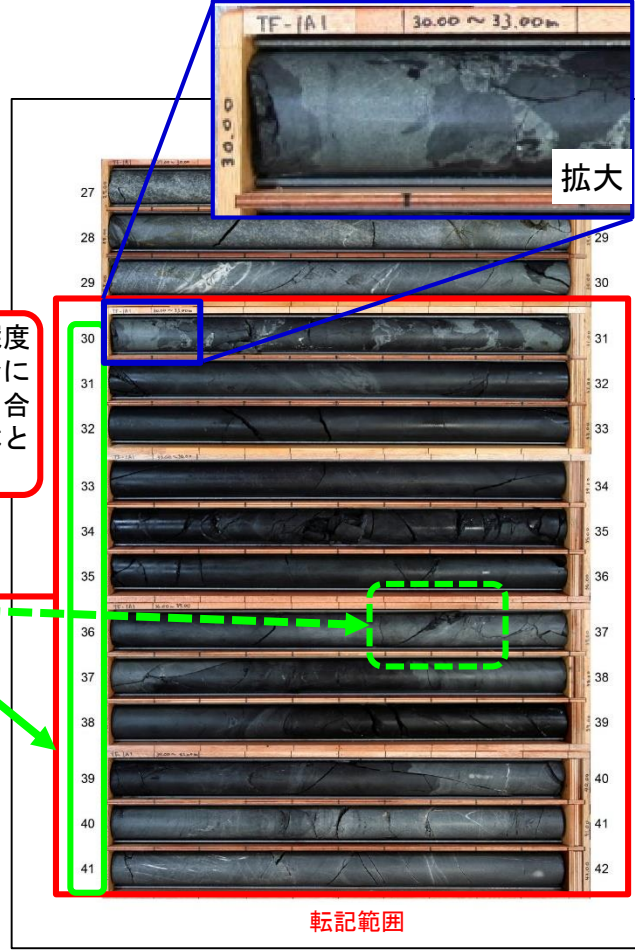
印刷物による確認の例  
作成資料と出典元の報告書を横並びにしてコア深度や特徴的な模様・ひび割れなどを確認する。

柱状図の情報（岩級区分、地質名、色調等）と写真を対比して最終確認する。

C-②

作成資料の例（審査資料）

画像拡大による確認の例  
資料作成中の作業や、出典元のコア写真に深度が併記されていない場合の確認作業などでは、ディスプレイ上で画像を拡大するなどしてコア箱に記載の情報（孔番、深度）を確認する。



拡大

転記範囲

出典元の例（報告書）

# 5. 再発防止策（チェック方法の詳細：音波探査記録の例）

➤ 以下の資料を社内品質保証ルールに添付し、ルール化する（    ：本事案の再発防止策）。

C-③

V. 地震以外に起因する津波の評価 3. 日高舟状海盆の海底地すべり 3. 1 浦河沖の海底地すべり  
3. 1. 2 崩壊域、堆積域及び海底地すべりのすべり面の推定結果：147測線

審査資料確認方法の例

第1027回審査会合(R4.1.28)  
資料1-2 p244 一部修正 244

C-①, C-②

画像拡大による確認の例

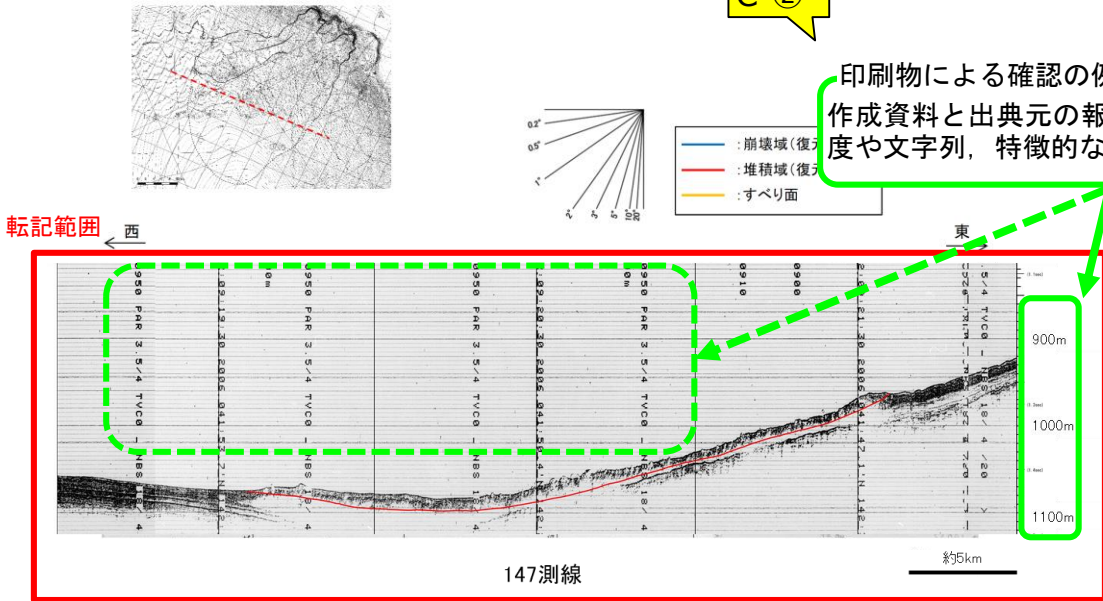
資料作成中の作業や、出典元の音波探査記録に測線番号や深度が併記されていない場合の確認作業などでは、ディスプレイ上で画像を拡大するなどして貼り付けた画像が正しいことを確認する。

印刷物による確認の例

作成資料と出典元の報告書を横並びにして深度や文字列、特徴的な地形等を確認する。

拡大

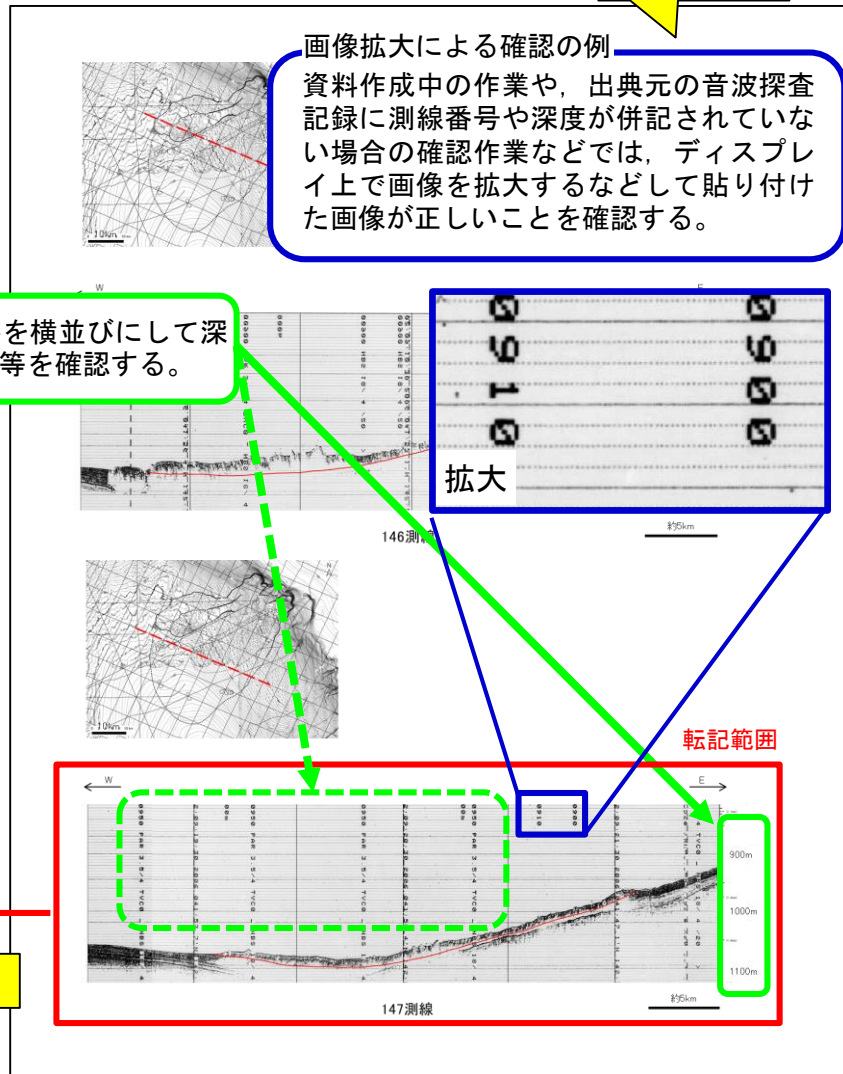
転記範囲



C-②

報告書の音波探査記録に測線番号が併記されている場合、音波探査記録と測線番号を合わせて切り取り、一体として転記する。

C-①



作成資料の例（審査資料）

出典元の例（報告書）

- 審査資料のうち、技術的データの基礎となる一次データに該当するボーリングコア写真が間違っていたことを深く反省し、原因究明したところ、外観による識別が難しい画像等について、調査報告書から審査資料への転記に対する資料作成・チェック機能の改善が必要と判断しました。
- 再発防止策として、画像等の転記に対する資料作成・チェックが確実に実施されるよう、具体的な資料の作成方法やチェック方法を例示した資料を含めて社内品質保証ルールを改定すると共に、審査資料の品質確保の重要性について、定期的に関係者に教育を行い、意識の向上を図ることとしました。
- 今回の再発防止策を関係者へ周知のうえ、実行を徹底することにより、今後、より一層、審査資料の品質確保に努めます。



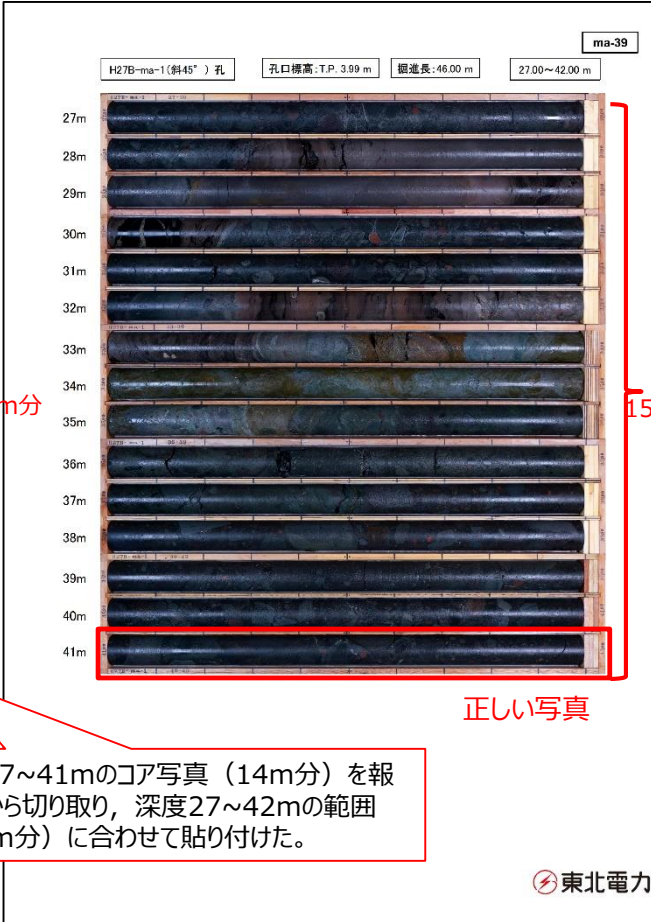
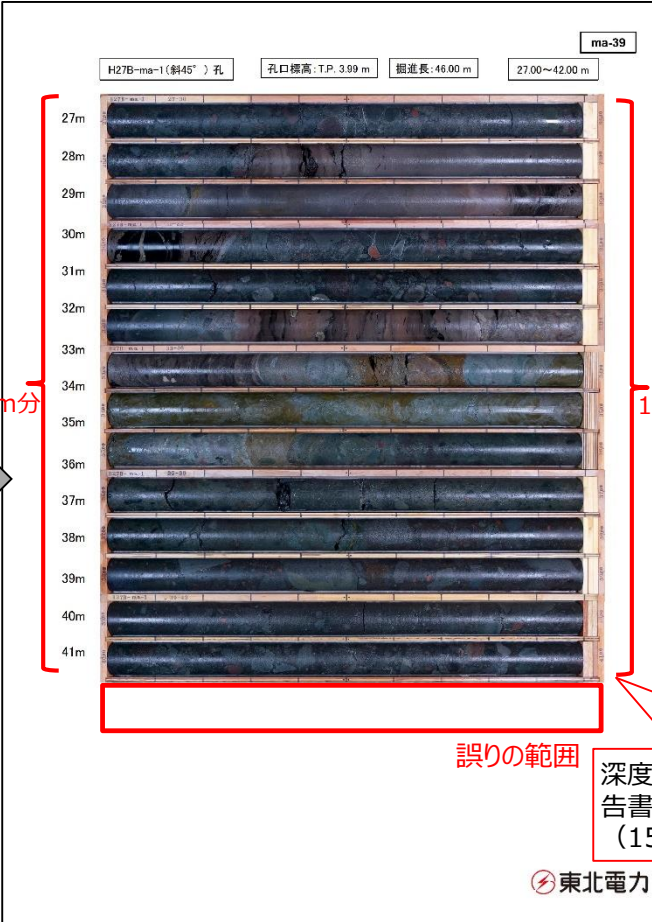
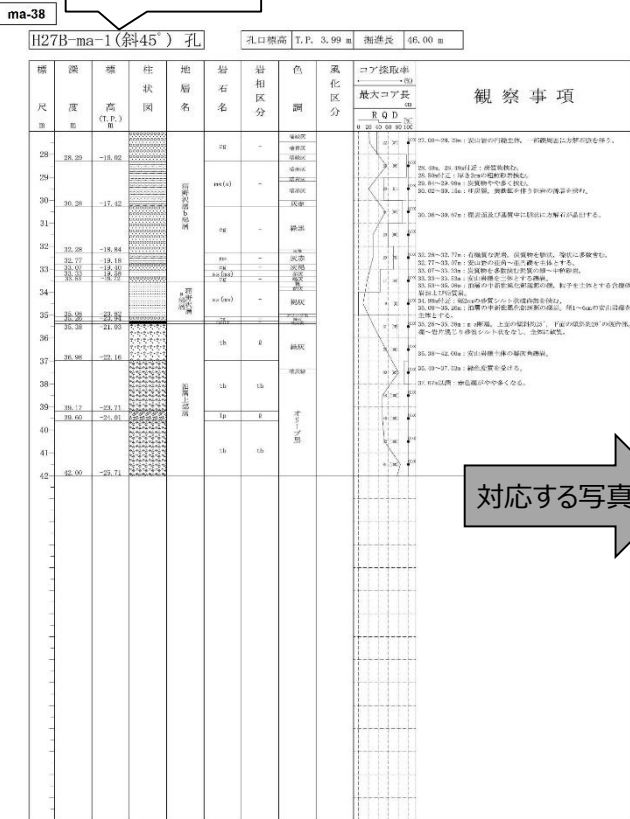
(巻末資料)  
その他の資料で確認された誤り

No.	プラント	資料	ページ	内容	正誤表ページ
1	東通1号	第454回審査会合（2017年3月17日） 敷地の地形，地質・地質構造 机上配布資料	ma-39	・ コア写真の貼り間違い （貼り付け範囲の不足）	18
2		第865回審査会合（2020年6月4日） 基準地震動策定のうち地下構造の評価 机上配布資料1	36	・ コア写真の貼り間違い （別の深度の写真）	19
3		第878回審査会合（2020年7月17日） 敷地周辺～敷地の地形，地質・地質構造 机上配布資料2	od-43	・ コア写真の深度の誤記	20
4		第902回審査会合（2020年10月2日） 敷地周辺～敷地の地形，地質・地質構造 補足説明資料1	2-11	・ コア写真の貼り間違い （別のボーリング孔）	21
5		第1068回審査会合（2022年9月2日） 津波の評価 補足説明資料	244	・ 音波探査記録の貼り間違い （別の測線の記録）	22
6		第1068回審査会合（2022年9月2日） 津波の評価 補足説明資料	246	・ 音波探査記録の貼り間違い （別の測線の記録）	23
7		第1068回審査会合（2022年9月2日） 津波の評価 補足説明資料	269	・ 音波探査記録の貼り間違い （別の測線の記録）	24
8	女川2号	第417回審査会合（2016年11月18日） 敷地の地形，地質・地質構造 机上配布資料	169	・ コア写真の貼り間違い （上下逆）	25
9		第417回審査会合（2016年11月18日） 敷地の地形，地質・地質構造 机上配布資料	249	・ コア写真の貼り間違い （別の深度の写真）	26

# 1. (東通1号) 第454回審査会合 敷地の地形、地質・地質構造 (机上配布資料, p.ma-39)

- H27B-ma-1孔の深度27~42mのコア写真に、深度27~41mのコア写真が貼られていた。
- ボーリング柱状図は正しく貼られており、コア写真の説明記事は正しく記載されていた。
- 当コア写真は他の資料へ転記していないこと、また、地質断面図等の2次データは柱状図の情報に基づき作成することから、貼り間違いによる他の資料への影響は無い。

H27B-ma-1孔



深度27~41mのコア写真 (14m分) を報告書から切り取り、深度27~42mの範囲 (15m分) に合わせて貼り付けた。



(誤)

(正)

## 2. (東通1号) 第865回審査会合 基準地震動策定のうち地下構造の評価 (机上配布資料1, p.36)

- O<sub>3</sub>-2孔の深度210~225mに、深度200~215mのコア写真が貼られていた。
- ボーリング柱状図は正しく貼られており、コア写真の説明記事は正しく記載されていた。
- 当コア写真は他の資料へ転記していないこと、また、地質断面図等の2次データは柱状図の情報に基づき作成することから、貼り間違いによる他の資料への影響は無い。

35

O<sub>3</sub>-2孔

(O <sub>3</sub> -2)孔 (11-8)		孔口標高 T.P. 7.43m		掘進長 310.00m						
層号	深度 (m)	標高 (T.P.) (m)	柱状図	地層名	岩性	色	風化区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	観察事項
1	0.00	38.184						38	184	
2	0.00	38.184						38	184	
3	0.00	38.146						38	146	
4	0.00	37.541						37	541	
5	0.00	37.183						37	183	
6	0.00	36.711						36	711	
7	0.00	36.191						36	191	
8	0.00	35.651						35	651	
9	0.00	35.181						35	181	
10	0.00	34.711						34	711	
11	0.00	34.191						34	191	
12	0.00	33.651						33	651	
13	0.00	33.100						33	100	
14	0.00	32.590						32	590	
15	0.00	32.041						32	41	
16	0.00	31.500						31	500	
17	0.00	30.920						30	920	
18	0.00	30.381						30	381	
19	0.00	29.842						29	842	
20	0.00	29.303						29	303	
21	0.00	28.764						28	764	
22	0.00	28.225						28	225	
23	0.00	27.686						27	686	
24	0.00	27.147						27	147	
25	0.00	26.608						26	608	
26	0.00	26.069						26	69	
27	0.00	25.530						25	530	
28	0.00	24.991						24	991	
29	0.00	24.452						24	452	
30	0.00	23.913						23	913	
31	0.00	23.374						23	374	
32	0.00	22.835						22	835	
33	0.00	22.296						22	296	
34	0.00	21.757						21	757	
35	0.00	21.218						21	218	
36	0.00	20.679						20	679	
37	0.00	20.140						20	140	
38	0.00	19.601						19	601	
39	0.00	19.062						19	62	

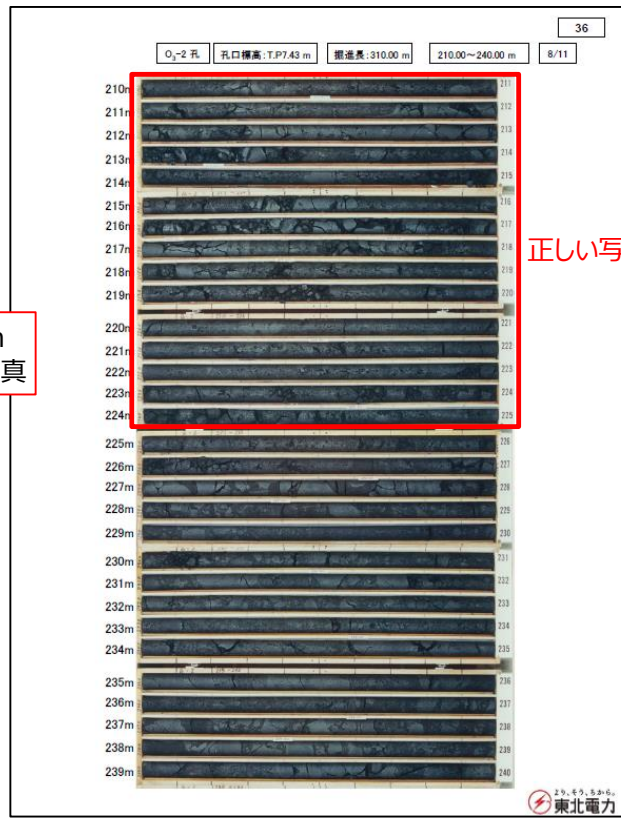
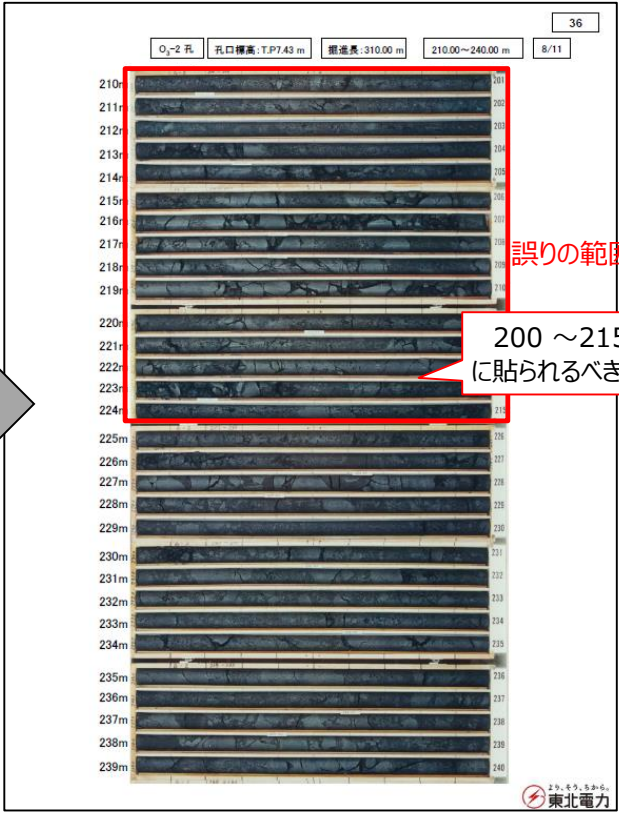
228.55m~228.70m: 赤色の粒子が混在する。

約228.7m~約235.0m: 礫に気孔が部分的に認められる。

237.83m~238.12m: 層状の「石質」が分布する。

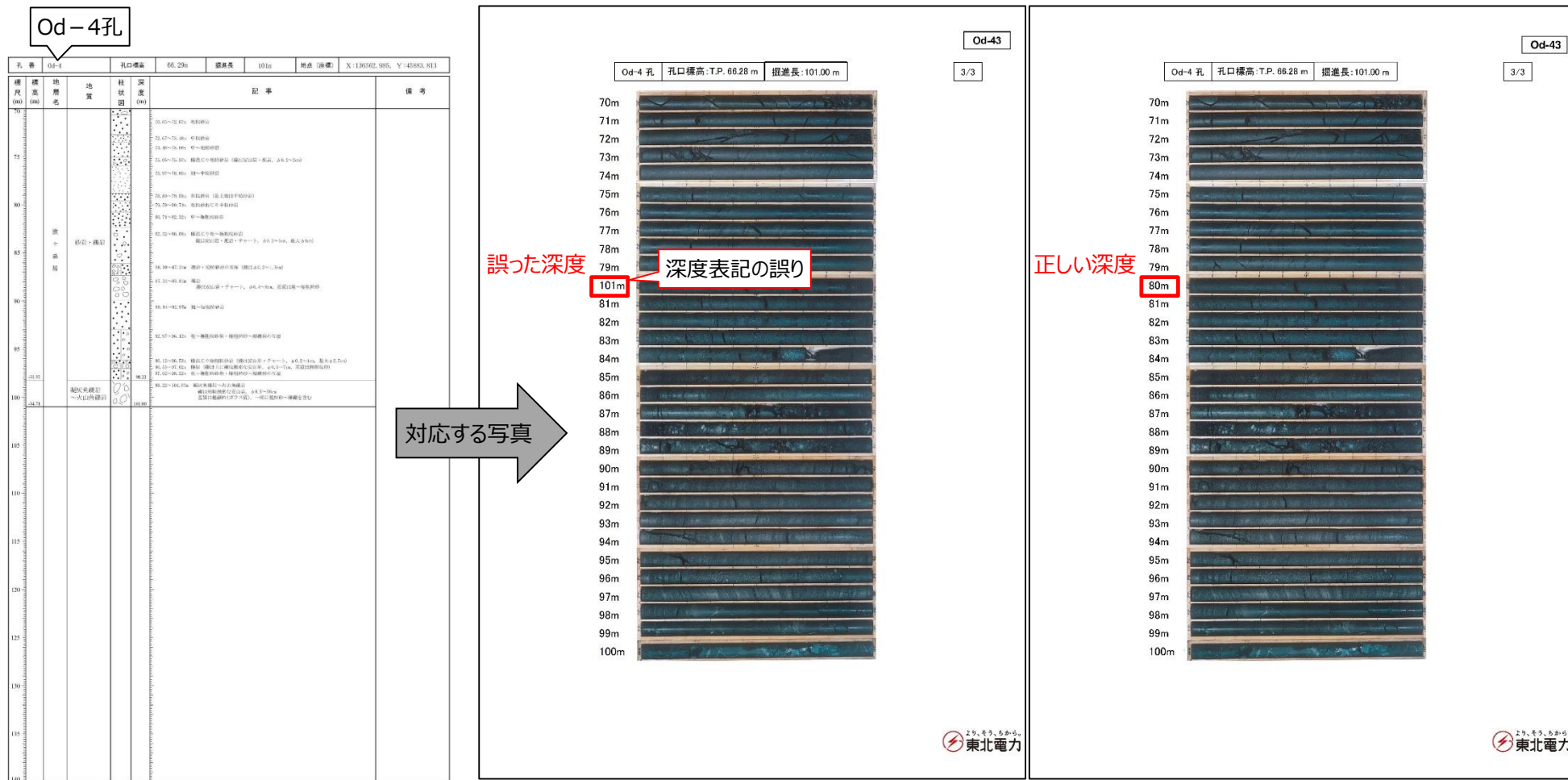
238.13m~242.00m: 礫に気孔が部分的に認められる。

対応する写真



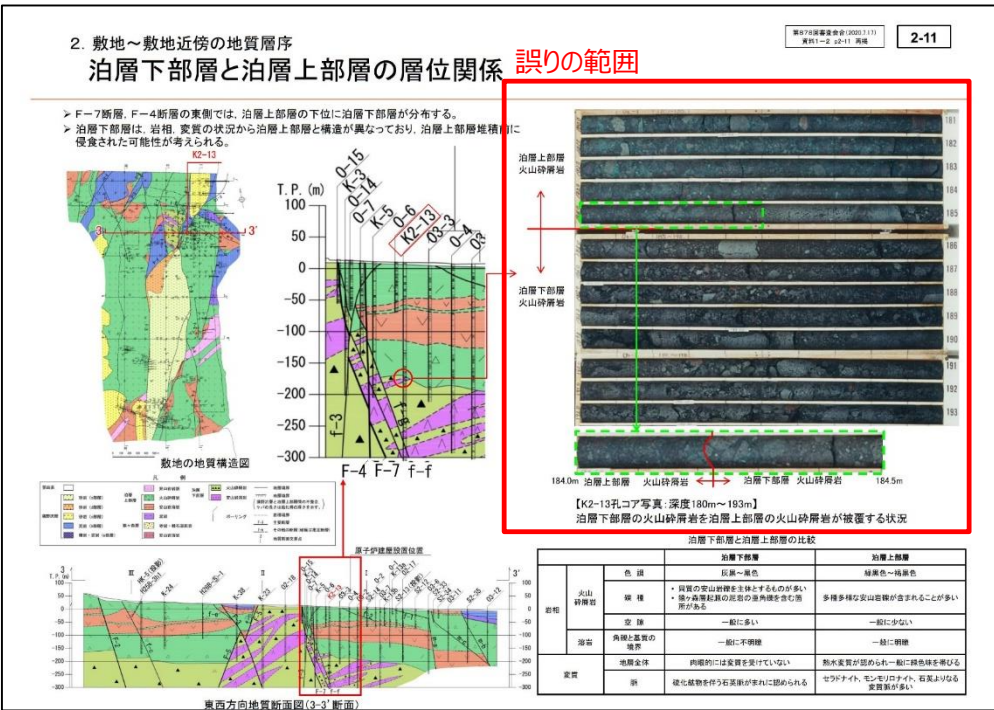
### 3. (東通1号) 第878回審査会合 敷地周辺～敷地の地形、地質・地質構造 (机上配布資料2, p.od-43)

- Od-4孔の70～101mのコア写真のうち、深度80mの深度表記が誤っていた。
- ボーリング柱状図・コア写真は正しく貼られており、コア写真の説明記事は正しく記載されていた。
- 地質断面図等の2次データは柱状図の情報に基づき作成することから、深度表記の誤りによる他の資料への影響は無い。

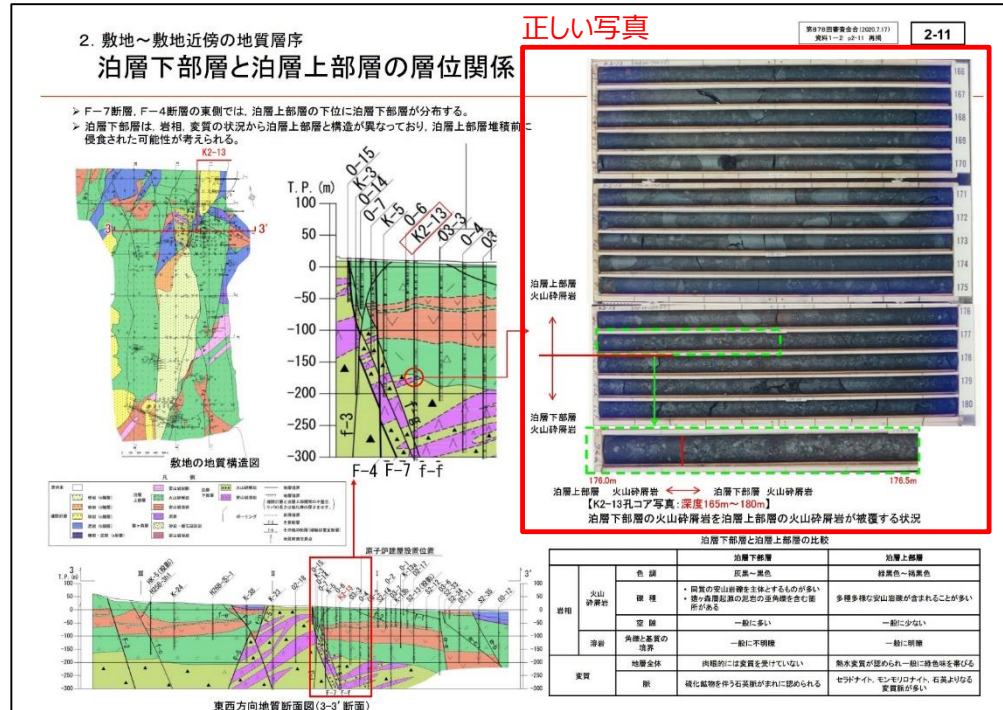


### 4. (東通1号) 第902回審査会合 敷地周辺～敷地の地形、地質・地質構造 (補足説明資料 1, p.2-11)

- ▶ 泊層下部層と泊層上部層の層位関係について、K2-13孔のコア写真を貼るべきところにO3-1孔のコア写真が貼られていた。
- ▶ 当該頁の地質構造図や地質断面図等の2次データは柱状図の情報に基づき作成することから、貼り間違いによる資料への影響は無い。



(誤)



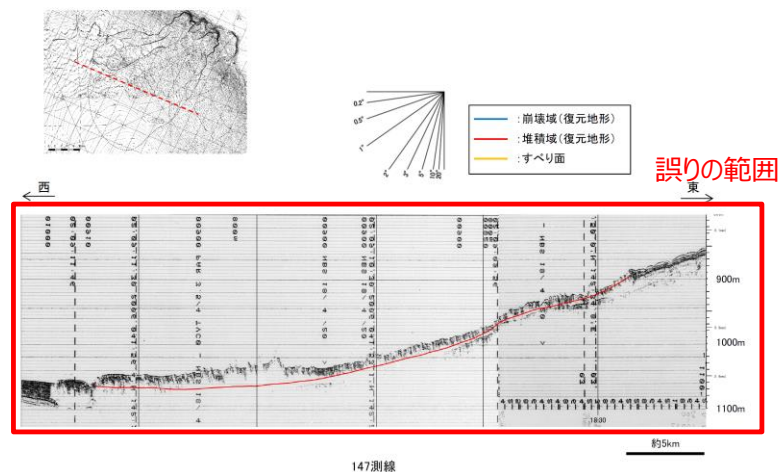
(正)

## 5. (東通1号) 第1068回審査会合 津波の評価 (補足説明資料, p.244)

- 浦河沖の海底地すべりについて、147測線の音波探査記録を貼るべきところに146測線の記録が貼られていた。
- 当測線は他の資料へ転記していないこと、また、海底地すべり前の地形（復元地形）は、出典元の測線に基づき作成していることから、貼り間違いによる津波解析への影響はない。

第1027回審査会合 (R4.1.28)  
資料1-2 p244 一部修正 244

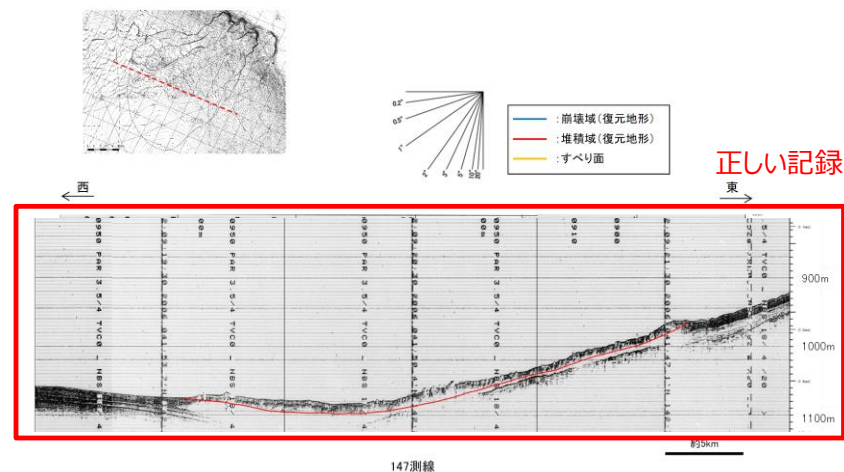
V. 地震以外に起因する津波の評価 3. 日高舟状海盆の海底地すべり 3.1 浦河沖の海底地すべり  
3.1.2 崩壊域、堆積域及び海底地すべりのすべり面の推定結果: 147測線



(誤)

第1027回審査会合 (R4.1.28)  
資料1-2 p244 一部修正 244

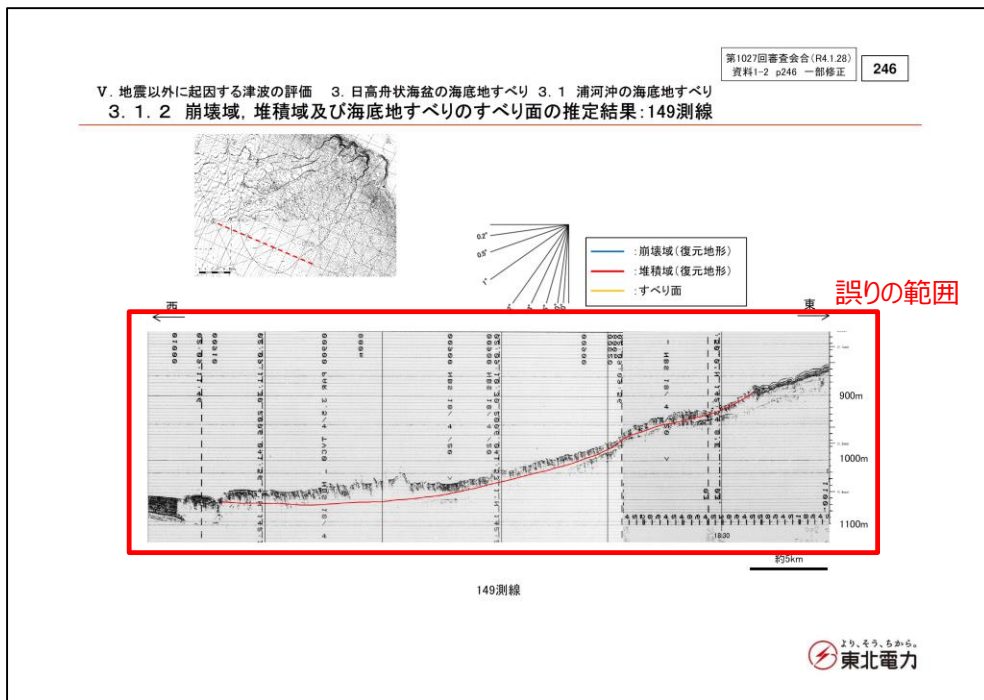
V. 地震以外に起因する津波の評価 3. 日高舟状海盆の海底地すべり 3.1 浦河沖の海底地すべり  
3.1.2 崩壊域、堆積域及び海底地すべりのすべり面の推定結果: 147測線



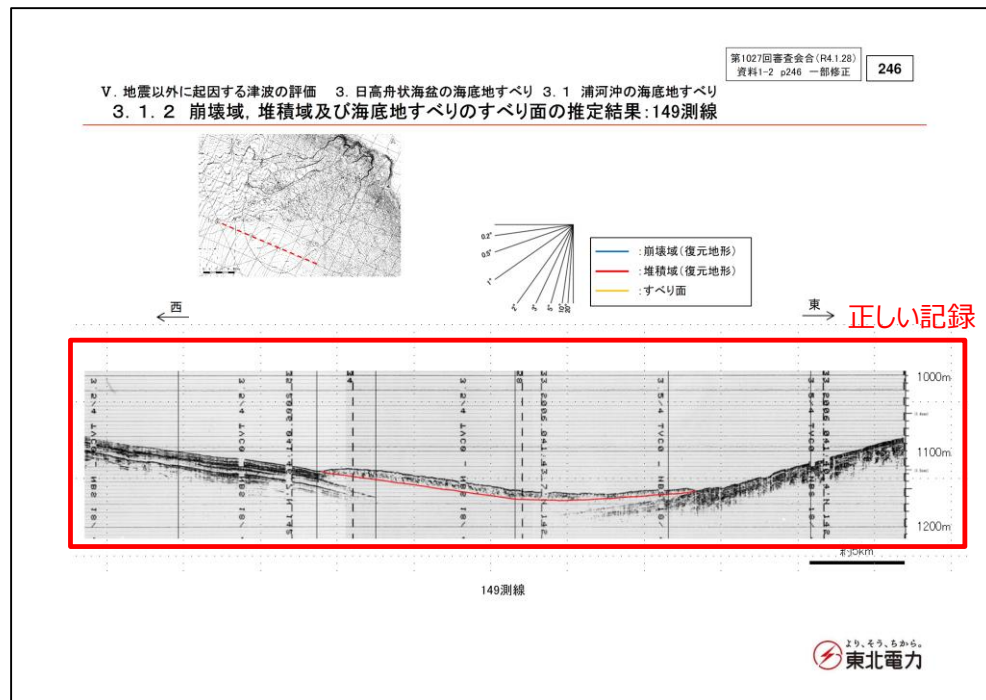
(正)

## 6. (東通1号) 第1068回審査会合 津波の評価 (補足説明資料, p.246)

- 浦河沖の海底地すべりについて、149測線の音波探査記録を貼るべきところに146測線の記録が貼られていた。
- 当測線は他の資料へ転記していないこと、また、海底地すべり前の地形(復元地形)は、出典元の測線に基づき作成していることから、貼り間違いによる津波解析への影響はない。



(誤)

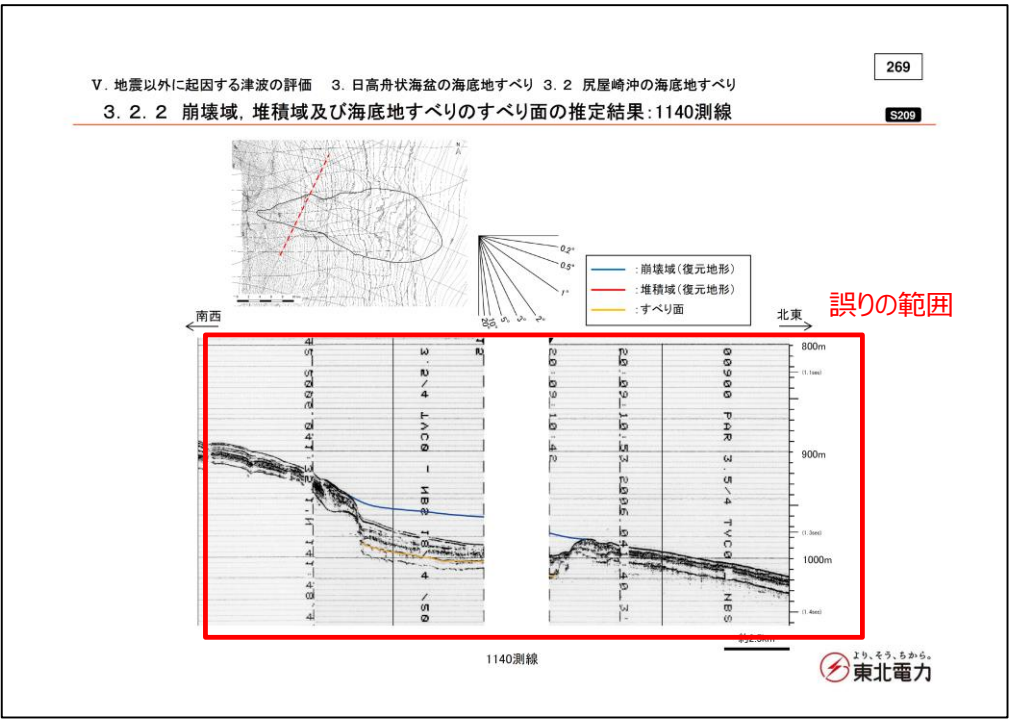


(正)

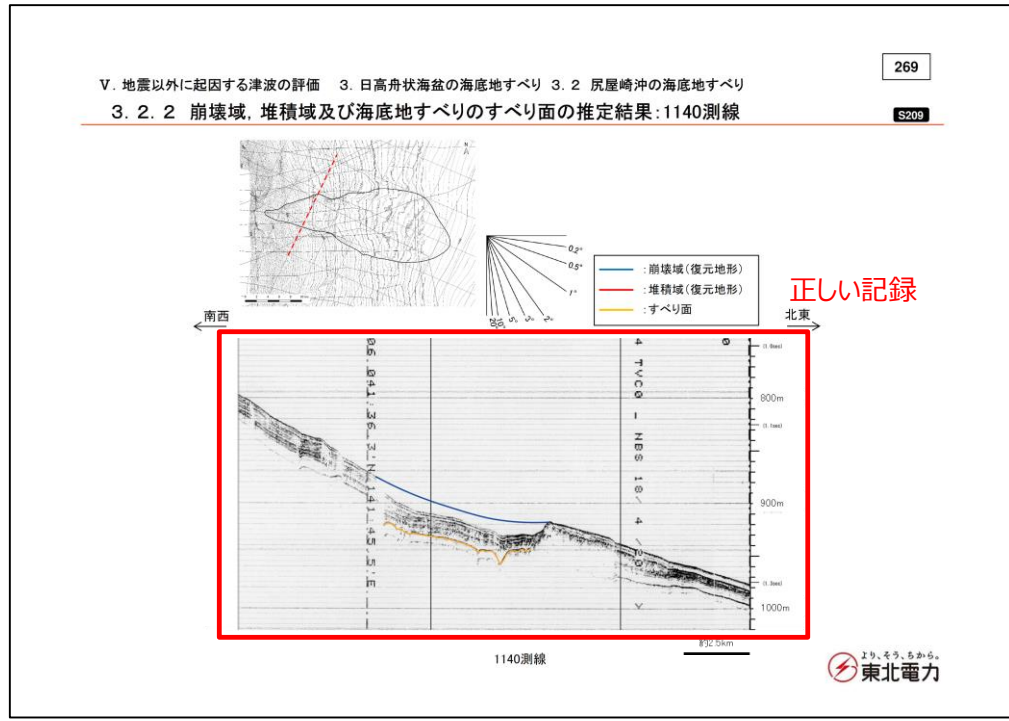


# 7. (東通1号) 第1068回審査会合 津波の評価 (補足説明資料, p.269)

- 尻屋崎沖の海底地すべりについて、1140測線の音波探査記録を貼るべきところに1139測線の記録が貼られていた。
- 当測線は他の資料へ転記していないこと、また、海底地すべり前の地形（復元地形）は、出典元の測線に基づき作成していることから、貼り間違いによる津波解析への影響はない。



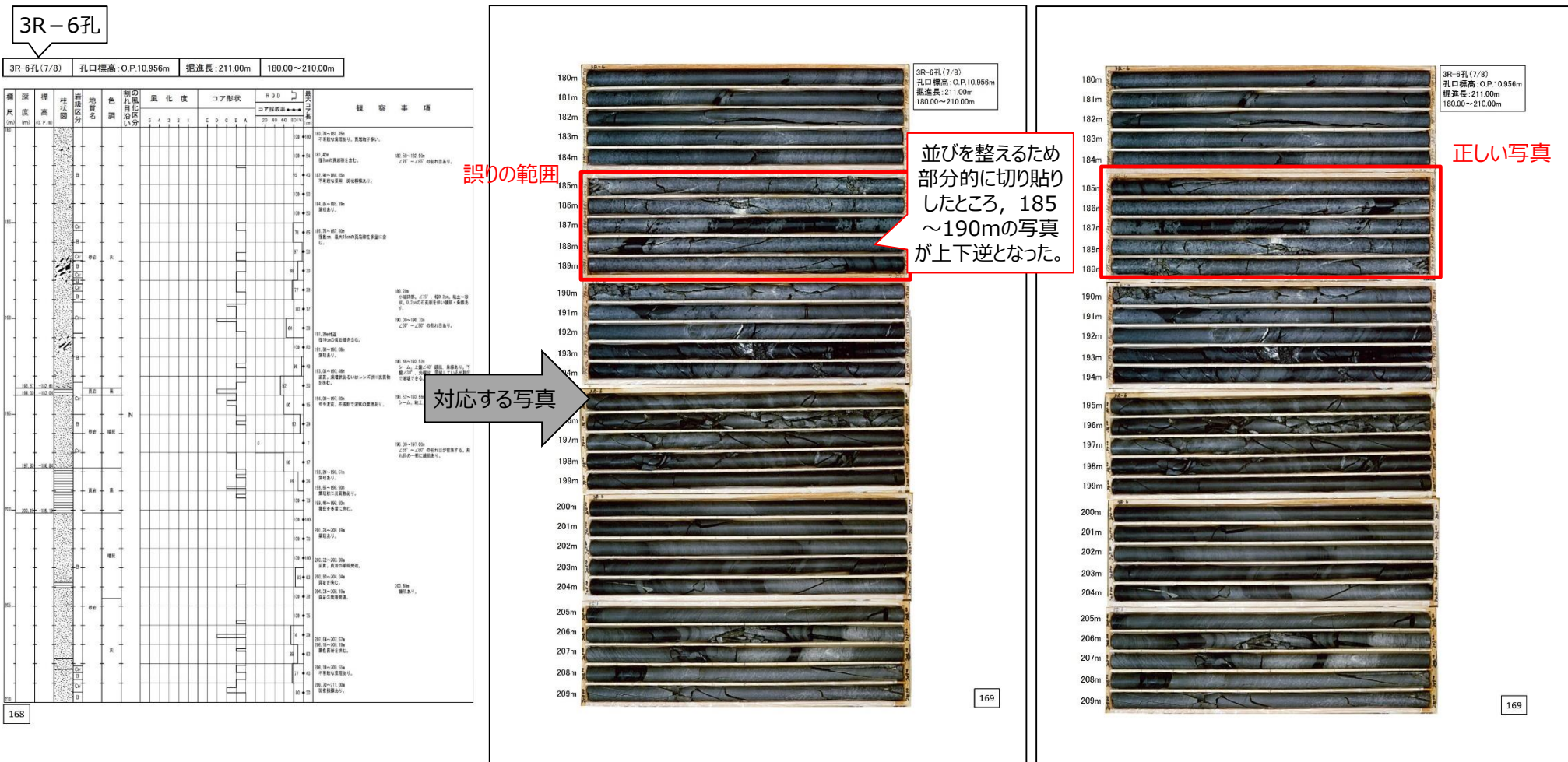
(誤)



(正)

## 8. (女川2号) 第417回審査会合 敷地の地形, 地質・地質構造 (机上配布資料, p.169)

- 3R-6孔の深度185~190mのコア写真が上下逆に貼り付けられていた。
- ボーリング柱状図は正しく貼られており, コア写真の説明記事は正しく記載されていた。
- 当コア写真は他の資料へ転記していないこと, また, 地質断面図等の2次データは柱状図の情報に基づき作成することから, 貼り間違いによるその他資料への影響は無い。

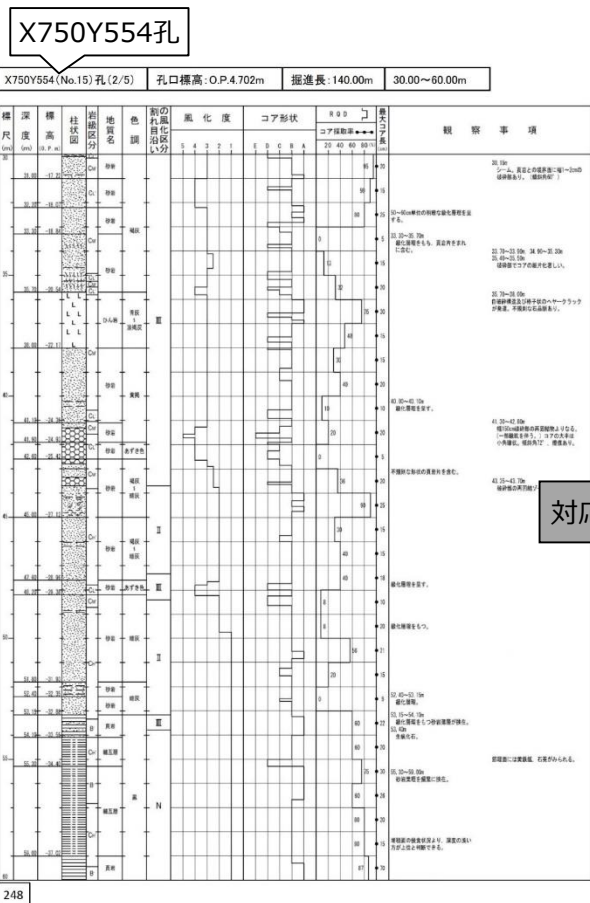


(誤)

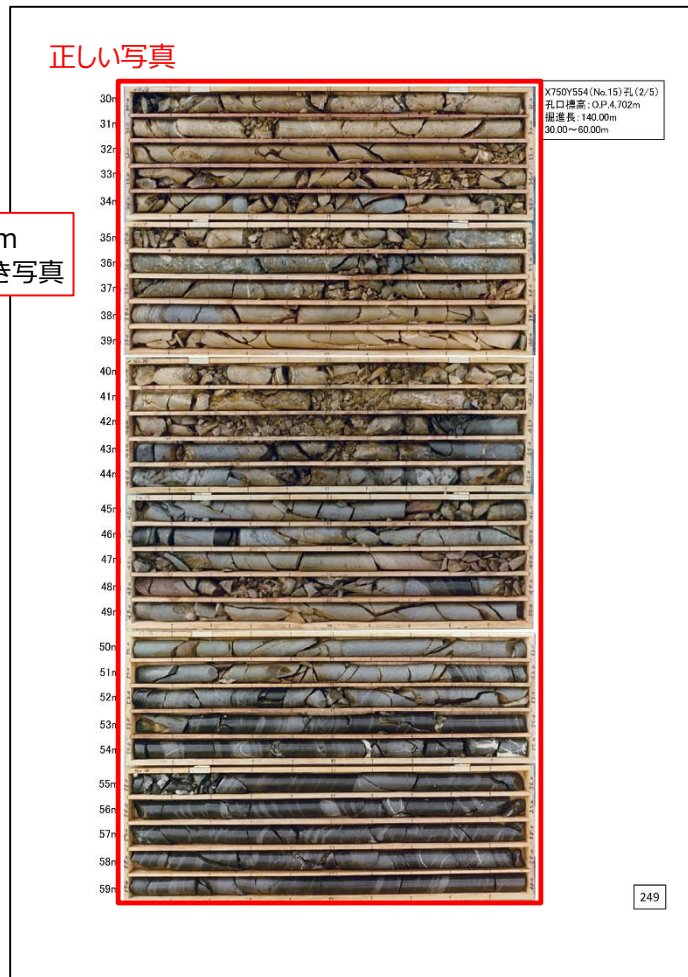
(正)

## 9. (女川2号) 第417回審査会合 敷地の地形, 地質・地質構造 (机上配布資料, p.249)

- X750Y554孔の深度30~60mに, 深度0~30mのコア写真が貼られていた。
- ボーリング柱状図は正しく貼られており, コア写真の説明記事は正しく記載されていた。
- 当コア写真は他の資料へ転記していないこと, また, 地質断面図等の二次データは柱状図の情報に基づき作成することから, 貼り間違いによるその他資料への影響は無い。



(誤)



(正)